

学術年会開催にあたって

田端 健司 (学術年会長)

再生医療技術と組織工学の発展により、ヒト由来細胞(初代培養細胞、iPSC 由来細胞、患者由来細胞など)を3D培養、共培養などの特殊な方法や、ヒト臓器の環境を生体外(on chip)で再現する技術が実用化されております。創薬研究における未充足研究領域は明確であり、医薬品候補化合物の臨床予測性向上を目的に、再生医療技術を有効性・安全性・薬物動態評価に応用化することにあります。研究トレンドとしても世界経済フォーラムが公表する Top 10 Emerging Technologies 2016 では「Organs-on-chips」が選出されるなど本分野への期待が高まっています。

このような背景から、第25回学術年会ではテーマを「人体模倣システムを用いた創薬研究基盤技術の新基軸」として、再生医療技術を創薬基盤研究につなげる話題に焦点を当てることといたしました。平成30年5月24、25、26日の3日間の予定で、茨城県つくば市にある産業技術総合研究所共用講堂にて開催することになります。

本年会ではヒトを模倣することをスコープとして、再生医療技術や組織工学に関する最先端の研究成果や利用例の紹介に加え、生体システムを数学的モデリング手法で模倣する定量的予測研究まで話題として取り上げました。本分野の最前線で活躍されている先生と共に、創薬研究基盤技術をいかに実用化につなげるかについて、皆様の活発な議論が交わされる機会にさせて頂ければと思います。

なお、3日目には一般市民を対象として子宮がん・卵巣がんについて公開シンポジウムを開催いたします。いずれも患者数が増加傾向にあるがんで、皆様の関心の高い疾患かと思っております。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



産業技術総合研究所 つくばセンター つくば中央 共用講堂
(茨城県つくば市東 1-1-1)

・つくばエクスプレス「つくば駅」下車、バスターミナル4番のりばから関東鉄道バス「荒川沖駅(西口)行(並木経由)」、「筑波宇宙センター経由(学園南循環)」または「桜ニュータウン行」にご乗車、「並木二丁目」下車

・JR常磐線「荒川沖駅」下車、西口4番のりばから関東鉄道バス「筑波大学中央行」または「つくばセンター行(並木経由)」に乗り、「並木二丁目」下車

「並木二丁目」バス停から「産総研つくば中央」まで徒歩3分

<事前参加登録費>

(要旨集を含む)

HAB 研究機構正会員：8,000円(当日：10,000円)

賛助会員：8,000円(当日：10,000円)
(一口につき1名でそれ以上は非会員扱い)

非会員：13,000円(当日：15,000円)

学生：6,000円(当日：8,000円)

懇親会参加費：5,000円

事前参加申込期限：2018年4月27日

※指定の郵便振込用紙をHAB研究機構事務局まで
ご請求下さい。

<お問い合わせ・お申込み先>

特定非営利活動法人HAB研究機構

〒272-8513

千葉県市川市菅野5-11-13 市川総合病院角膜炎センター内

TEL 047-329-3563 FAX 047-329-3565

E-mail secretariat@hab.or.jp URL http://www.hab.or.jp

第25回HAB研究機構学術年会

人体模倣システムを用いた 創薬研究基盤技術の新基軸

First Circular

ver. 3.0



学術年会長：田端 健司
(アステラス製薬株式会社)

日時：2018年5月24日(木)～26日(土)

9:00～18:00

会場：産業技術総合研究所 つくばセンター 共用講堂

協賛： 日本薬物動態学会 日本薬理学会
日本臓器保存生物医学会 日本再生医療学会
日本生物工学会 化学工学会バイオ部会
後援： 産業技術総合研究所 日本毒性学会
日本臨床薬理学会

最新情報はホームページにて (<http://www.hab.or.jp>)
公開予定です。是非ご参照下さい。

第25回 HAB 研究機構学術年会 – プログラム概要 –

5月24日(木) 9:00 受付開始

09:35~ シンポジウム I

ヒト由来細胞を用いた薬物動態・安全性評価の最前線

座長：吉成 浩一（静岡県立大学）
篠澤 忠紘（武田薬品工業株式会社）

In vitro 細胞培養系を用いた肝薬物動態、薬物性肝障害評価系の動向 石田 誠一（国立医薬品食品衛生研究所）

ヒト iPS 細胞由来神経ネットワークの機能を指標とした毒性評価 鈴木 郁郎（東北工業大学大学院）

ヒト iPS 細胞由来心筋細胞を用いた薬物の心収縮毒性評価 内藤 篤彦（東邦大学医学部）

ヒト iPS 細胞由来腎臓オルガノイドを用いた腎薬物動態評価系の開発 高里 実（理化学研究所）

13:30~ 招待講演 I

座長：鈴木 睦（協和発酵キリン株式会社）

ヒト未分化細胞を用いた化合物安全性評価予測の実際 藤瀨 航（京都大学 iPS 細胞研究所）

14:20~ 招待講演 II

座長：木内 祐二（昭和大学）

残余組織検体からの癌および正常細胞培養技術とインフラ整備 井上 正宏（大阪国際がんセンター研究所）

15:30~ シンポジウム II

The cell engineering; iPS 由来細胞からオーガノイドまで

座長：荒木 徹朗（旭化成ファーマ株式会社）
平林 英樹（武田薬品工業株式会社）

創薬応用のためのヒト iPS 細胞由来肝細胞および小腸上皮細胞の作製 水口 裕之（大阪大学大学院）

腎幹前駆細胞由来オーガノイドを用いた *in vitro* 腎毒性試験 大林 徹也（鳥取大学生命機能研究支援センター）

製薬企業における組織工学技術への期待と技術評価事例 手塚 和宏（アステラス製薬株式会社）

患者由来 iPS 細胞を用いた進行性骨化性線維異形成症の病態解析と創薬応用研究 池谷 真（京都大学 iPS 細胞研究所）

懇親会

参加費：5,000円

5月24日(木) 18:00より 食堂ホールにて

年会1日目講演終了後に、懇親会を開催いたします。
是非皆様ご参加ください。

5月25日(金) 8:30 受付開始

09:00~ シンポジウム III

細胞工学手法を用いた細胞培養システムの進展

座長：伊藤 晃成（千葉大学大学院）
小森 高文（エーザイ株式会社）

3次元スフェロイドの微細構造化による肝機能の制御 小島 伸彦（横浜市立大学大学院）

バイオプリンターを用いた創薬支援ツールの開発 井出 いずみ（株式会社サイフェーズ）

3次元組織形成による細胞アッセイ 竹内 昌治（東京大学生産技術研究所）

薬物動態解析のためのマイクロ人体モデルの開発 佐藤 記一（群馬大学大学院）

11:15~ 招待講演 III

座長：栗原 厚（第一三共株式会社）

ウェット *in-vivo* シミュレーターとしての MPS (Micro Physiological System) への期待 金森 敏幸（産業技術総合研究所）

14:05~ 招待講演 IV

座長：田端 健司（アステラス製薬株式会社）

The Virtual Human Patient. Quantitative Systems Pharmacology as a Tool for Improving CNS Research & Development
Dr. Hugo Geerts (In Silico Biosciences, Inc.)

14:55~ シンポジウム IV

システムズモデリングによる定量的ヒト予測の最先端

座長：楠原 洋之（東京大学大学院）
樋坂 章博（千葉大学大学院）

疾患トランスクリプトームデータ及び動的病態モデリングの創薬トランスレーショナル研究への活用事例 清澤 直樹（第一三共株式会社）

トランスオミクスを用いたインスリン作用機構の解明 黒田 真也（東京大学大学院）

臨床開発におけるシステムズモデリングの活用 大石 昌代（ファイザー株式会社）

医薬品開発におけるシステムズファーマコロジー活用の課題と展望 ~ 企業でのワークフロー ~ 佐山 裕行（アステラス製薬株式会社）

5月26日(土) 12:30 受付開始

13:00~ 第32回市民公開シンポジウム 婦人科がんの話題

後援：筑波大学附属病院（予定）

座長：田端 健司（アステラス製薬株式会社）
深尾 立（HAB 研究機構）

女性のライフサイクルの変化と婦人科悪性腫瘍 佐藤 豊実（筑波大学産科婦人科）

遺伝する婦人科がんとは？ 志鎌 あゆみ（筑波大学産科婦人科）

抗体医薬品について 池上 正晃（中外製薬株式会社）

ランチョンセミナー

5月24日(木) 昼食時 多目的室にて

年会1日目の昼食時に、ランチョンセミナーを開催いたします。是非皆様ご参加ください。

座長：宇波 明（アステラス製薬株式会社）
提供：ベリタス株式会社

ヒト iPS 細胞由来各種細胞の創薬安全性研究への利活用

宮本 憲優（エーザイ株式会社）

ランチョンプレゼンテーション

5月25日(金) 昼食時 ホワイエにて

年会2日目の昼食時に、ランチョンプレゼンテーション(ポスター発表)を開催いたします。細胞アッセイ研究会とHABのメンバーで、日頃の研究成果や培養・アッセイ装置への希望を相互に議論していただける場をご用意いたします。軽食をご用意いたしますので、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

— ポスター発表募集 —

ポスター発表をご希望の方は、下記メールアドレスに演題名を添えてエントリーをお願いいたします。

締切：2018年2月9日(金)

E-mail：25-habam@hab.or.jp

※演題ならびに講演順は変更になる場合がございます